

SIDR

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 12 巻第 30 号

第 30 週 (7月23日～ 7月29日)

発行年月日:平成24年(2012年) 8月 1日

発行 : 滋賀県衛生科学センター内

滋賀県感染症情報センター

電話:077-537-7438 FAX:077-537-5548

今週の感染症発生動向

◆ 腸管出血性大腸菌感染症の発生は、今年になって25例目

◆ マイコプラズマ肺炎は増加傾向

★一類～五類全数報告感染症の発生状況(第30週)

- ・一類感染症――報告はありません
- ・二類感染症――結核 3名
- ・三類感染症――腸管出血性大腸菌感染症 1名(患者、血清型・毒素型:O157VT2)
腸管出血性大腸菌感染症の発生状況については、3. その他 に示すとおりです。
- ・四類感染症――レジオネラ症 1名(病型:肺炎型、年齢:50歳代)
- ・五類感染症――風しん 2名(男性 2名、病型:臨床診断例 2名、年齢:30歳代 1名、50歳代 1名)
(ワクチン接種歴:1回目・2回目とも無し 1名、1回目有り・2回目無し 1名)

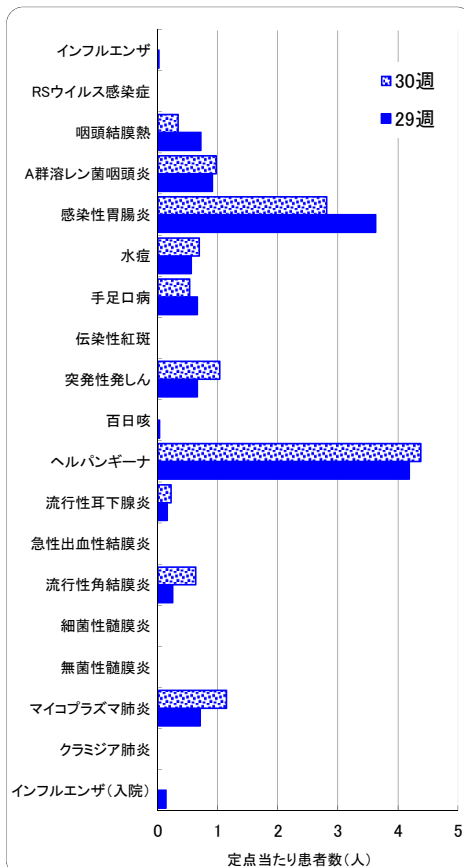
★定点把握の対象となる五類感染症の疾患別発生状況(先週との比較、定点当たり患者数)

下記グラフに示す19疾患の患者報告数は、先週(377名)よりやや減少し、今週は364名となっています。今週、増加した疾患は水痘、ヘルパンギーナ、マイコプラズマ肺炎等で、特に、マイコプラズマ肺炎は2週連続して大幅に増加し、昨年同時期よりかなり多くなっています。マイコプラズマ肺炎の年齢群別発生割合は、(3)今週の発生状況に示すとおりです。今週、減少した疾患は咽頭結膜熱(プール熱)、感染性胃腸炎、手足口病等です(週別発生状況については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

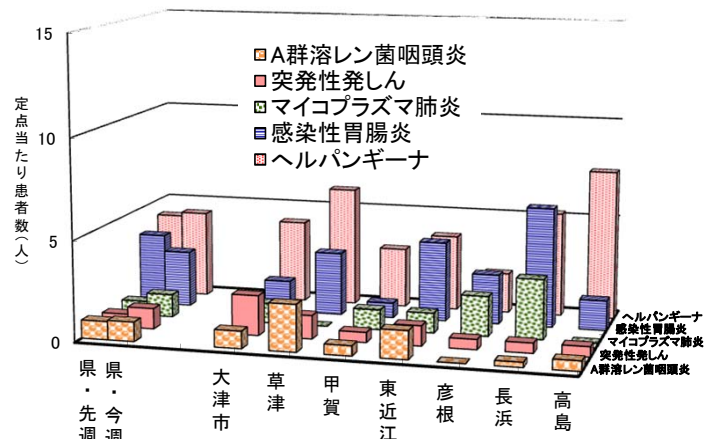
また、インフルエンザ入院サーベイランスにおける、インフルエンザの入院患者の届出はありませんでした。

「感染症発生動向調査に基づく流行の警報・注意報システム」によると、警報および注意報の発生基準値を超えている疾患および保健所管内は下記のとおりです。

警 報―― 手足口病 (警報開始基準値 5.00、警報終息基準値 2.00) 高島保健所管内
ヘルパンギーナ (警報開始基準値 6.00、警報終息基準値 2.00) 草津、長浜および高島保健所管内



上位疾患の保健所管内別発生状況(第30週)



県全体における上位疾患の発生状況は、①ヘルパンギーナ、②感染性胃腸炎、③マイコプラズマ肺炎、④突発性発しん、⑤A群溶レン菌咽頭炎の順に多くなっています。

ヘルパンギーナ――草津では先週より増加し、警報開始基準値(6.00)となっています。また、長浜および高島では先週に引き続き警報終息基準値(2.00)を超えています。

感染性胃腸炎――草津および甲賀では先週より微増となっていますが、他の保健所管内では、先週より減少しています。

マイコプラズマ肺炎――県全体では、先週よりさらに増加し、草津および高島以外の保健所管内から報告されています。

A群溶レン菌咽頭炎――草津では先週に引き続きやや多くなっています。また、東近江では、先週より大幅に増加しています。

1. 全数報告感染症(一類～五類)の累積報告数

滋賀県内の医療機関において、感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断した医師は、保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といい、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症等を把握することができます。

感 染 症 類 型	疾 患 名	平成24年 累積報告数		平成23年 累積報告数 ^(※1)		平成22年 累積報告数 ^(※2)	
		滋賀 (30週)	全 国 ^(※3) (29 週 ^注)	滋 賀	全 国 ^(※3)	滋 賀	全 国 ^(※3)
一 類 感 染 症	報告なし	0	0	0	0	0	0
二 類 感 染 症	結核	151	16,069	338	31,467	251	26,866
三 類 感 染 症	コレラ	0	2	0	12	0	11
	細菌性赤痢	0	112	5	299	2	235
	腸管出血性大腸菌感染症	25	1,244	71	3,938	66	4,134
	パラチフス	0	10	0	23	1	21
四 類 感 染 症	E型肝炎	0	78	0	61	0	66
	A型肝炎	1	113	0	176	3	347
	オウム病	0	5	0	13	1	11
	つつが虫病	1	190	1	461	2	407
	デング熱	0	76	1	104	2	244
	マラリア	2	37	0	78	0	73
	レジオネラ症	4	461	12	819	10	751
五 類 感 染 症	アメーバ赤痢	8	471	2	814	7	843
	ウイルス性肝炎	0	123	1	249	3	221
	急性脳炎	3	230	1	259	0	242
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1	101	2	136	2	172
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	148	2	198	3	122
	後天性免疫不全症候群	4	750	6	1,523	1	1,553
	ジアルジア症	1	30	1	68	1	77
	梅毒	0	452	6	827	9	621
	破傷風	0	55	1	114	0	106
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	48	0	73	2	120
	風しん	12	776	2	374	5	87
	麻しん	1	196	1	443	1	447
動物の感染症	細菌性赤痢(サル)	0	1	9	37	0	59

注：30週の全国累積報告数については、次週の滋賀県感染症情報(SIDR)に掲載します。

※1：感染症発生動向調査事業年報暫定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成24年3月現在)。

※2：感染症発生動向調査事業年報確定数(国立感染症研究所感染症情報センター、平成24年3月)。

※3：全国の累積報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています(国立感染症研究所感染症情報センター提供資料参照)。

2. 定点把握の対象となる五類感染症の週別および保健所管内別発生状況

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症の発生状況を示します。また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです。
(患者報告数＝定点当たり患者数×定点数)

(1)疾病別・週別発生状況(平成24年第25週～30週、6/18～7/29)

定点区分	定点 数	疾 患 名	定点当たり患者数 (↑ 前週より増加 → 前週と同じ ↓ 前週より減少)										
			25週	26週	27週	28週	29週	30週	週				
			6/18 ~	6/25 ~	7/2 ~	7/9 ~	7/16 ~	7/23 ~	26	27	28	29	30
インフルエンザ	53	インフルエンザ	0.04	0	0	0	0.02	0	↓	→	→	↑	↓
小児科	32	RSウイルス感染症	0	0	0.03	0	0	0	→	↑	↓	→	→
		咽頭結膜熱(プール熱)	0.44	0.53	0.63	0.59	0.72	0.34	↑	↑	↓	↑	↓
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.03	2.16	2.34	1.44	0.91	0.97	↑	↑	↓	↓	↑
		感染性胃腸炎	6.63	6.97	4.13	4.19	3.63	2.81	↑	↓	↑	↓	↓
		水痘	1.28	1.03	1.09	1.06	0.56	0.69	↓	↑	↓	↓	↑
		手足口病	0.13	0.19	0.41	0.38	0.66	0.53	↑	↑	↓	↑	↓
		伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0	0	0	0	↓	→	→	→	→
		突発性発しん	0.91	1.00	0.53	0.88	0.66	1.03	↑	↓	↑	↓	↑
		百日咳	0.13	0.03	0	0.06	0.03	0	↓	↓	↑	↓	↓
		ヘルパンギーナ	1.66	3.16	3.53	4.09	4.19	4.38	↑	↑	↑	↑	↑
		流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.38	0.13	0.16	0.28	0.16	0.22	↓	↑	↑	↓	↑
眼科	8	急性出血性結膜炎	0.13	0	0.50	0	0	0	↓	↑	↓	→	→
		流行性角結膜炎	0.13	0.63	0.25	0.13	0.25	0.63	↑	↓	↓	↑	↑
基幹	7	細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
		無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
		マイコプラズマ肺炎	0.43	0.14	0.29	0.29	0.71	1.14	↓	↑	→	↑	↑
		クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	→	→	→	→	→
		インフルエンザ(入院) *	0	0	0	0	0.14	0	→	→	→	↑	↓

※：平成23年9月5日からインフルエンザ入院サーベイランスが開始されたことに伴い、基幹定点からの報告数(定点当たり患者数)を掲載

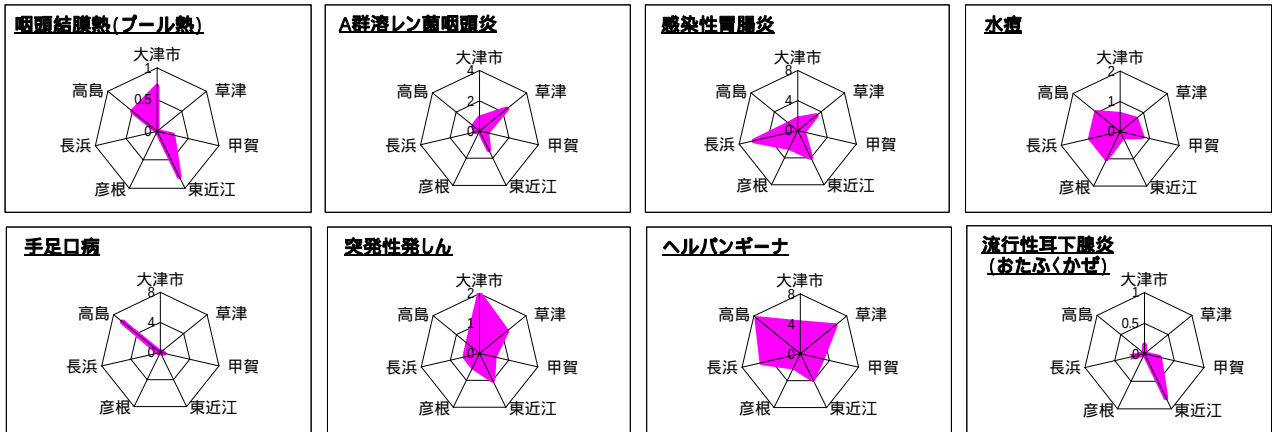
(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第30週、7/23～7/29)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)								疾患別発生状況(県)				
	県	大津市	草津	甲賀	東近江	彦根	長浜	高島					
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0					
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0					
咽頭結膜熱(プール熱)	0.34	0.71	0.00	0.25	0.80	0	0	0.50	■				
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.97	0.86	2.33	0.50	1.40	0	0.25	0.50	■				
感染性胃腸炎	2.81	1.57	3.17	0.75	4.00	2.50	6.00	1.50	■				
水痘	0.69	0.57	0.67	0.75	0.20	1.00	1.00	1.00	■				
手足口病	0.53	0	0.17	0.50	0	0	0.25	6.50	■				
伝染性紅斑(リンゴ病)	0	0	0	0	0	0	0	0					
突発性発しん	1.03	2.00	1.17	0.50	1.00	0.50	0.50	0.50	■				
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0					
ヘルパンギーナ	4.38	4.14	6.00	3.00	3.80	2.00	5.25	7.50	■				
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.22	0.14	0	0.25	0.80	0	0.25	0	■				
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0					
流行性角結膜炎	0.63	0.50	1.00	2.00	0	0	0	1.00	■				
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0					
無菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0					
マイコプラズマ肺炎	1.14	1.00	0	1.00	1.00	2.00	3.00	0	■				
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0					
インフルエンザ(入院)	0	0	0	0	0	0	0	0					

赤・太字 は警報発生基準値(開始基準値または終息基準値)を超えています。
青緑・太字 は注意報発生基準値を超えています。

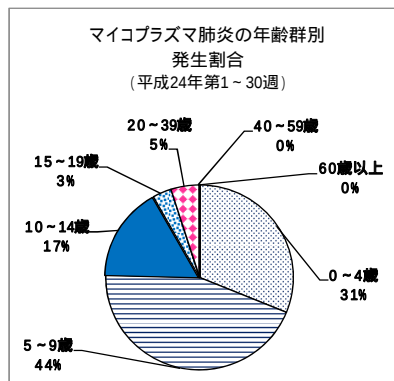
0 1 2 3 4 5
定点当たり患者数(人)

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

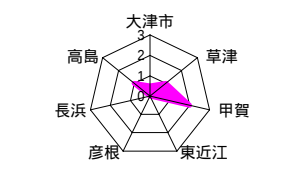


(3)今週の発生状況

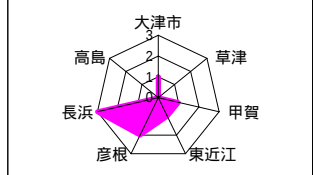
マイコプラズマ肺炎の年齢群別発生割合
(平成24年第1～30週、H24.1.2.～H24.7.29)



流行性角結膜炎



マイコプラズマ肺炎



滋賀県の平成24年第1～30週における定点医療機関からの患者報告数は61名です。滋賀県における年齢群別発生割合は、左記グラフのとおりです。

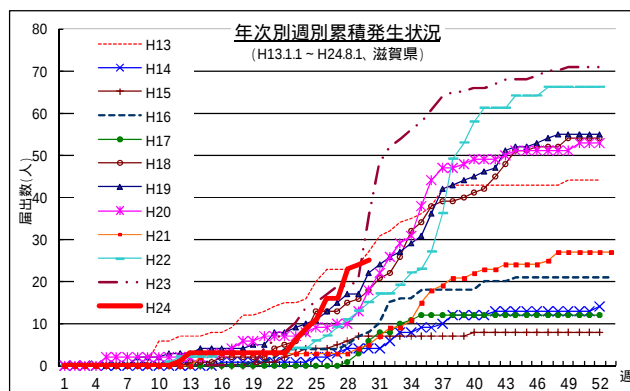
昨年同時期(患者報告数は38名)と比較すると、10～14歳および20～39歳で約半減となっていますが、5～9歳および15～19歳で大幅に増加しています。

また、全国における第29週現在の年齢群別発生割合は、0～4歳30%、5～9歳31%、10～14歳18%、15～19歳3%、20～39歳8%、40～59歳4%および60歳以上6%となっています。

3. その他

腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

[トップページに戻る](#)



平成24年8月1日現在の届出数は25名で、男性18名、女性7名です。診断の類型は患者20名、無症状病原体保有者5名です。

血清型・毒素型は

O157・VT1&VT2 11名 O157・VT2 5名
O145・VT2 3名 O26・VT1 6名です。

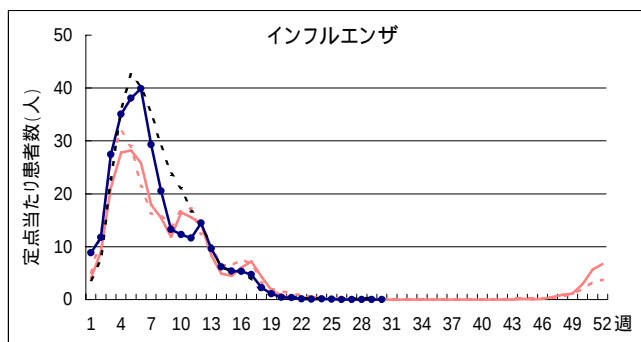
年齢は

0～9歳 10名、10～19歳 2名、20～29歳 4名
30～39歳 2名、40～49歳 1名、50～59歳 4名
60～69歳 1名、70歳以上 1名です。

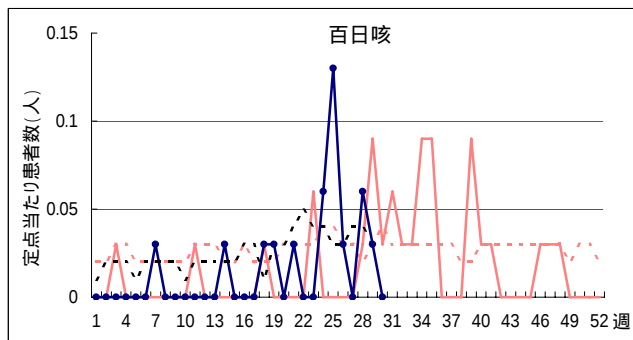
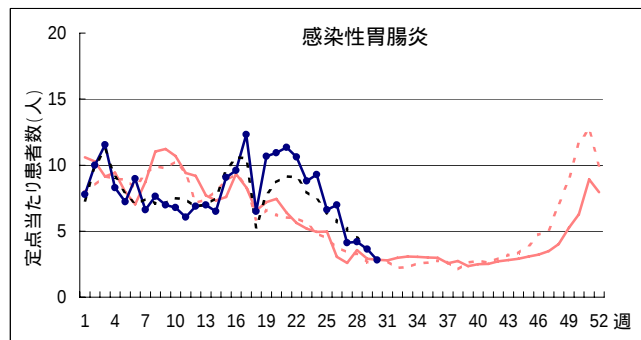
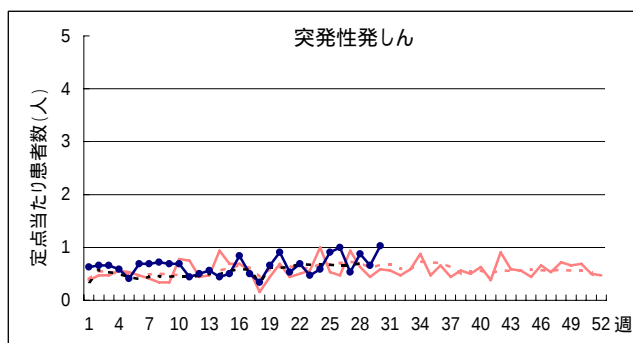
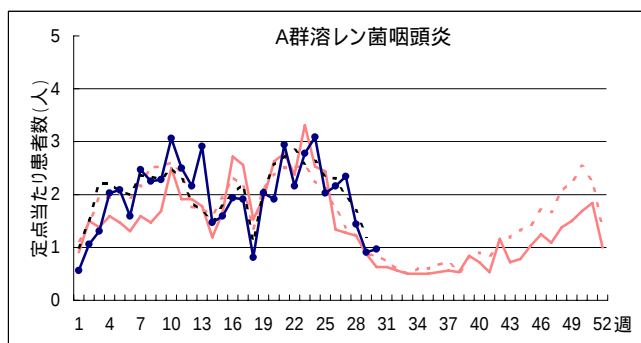
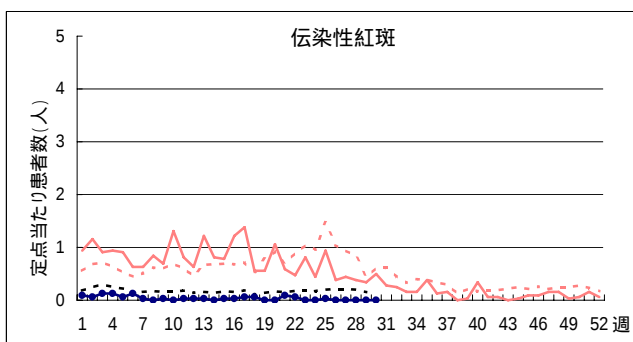
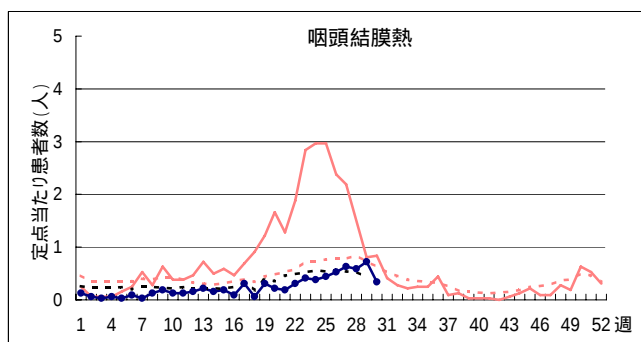
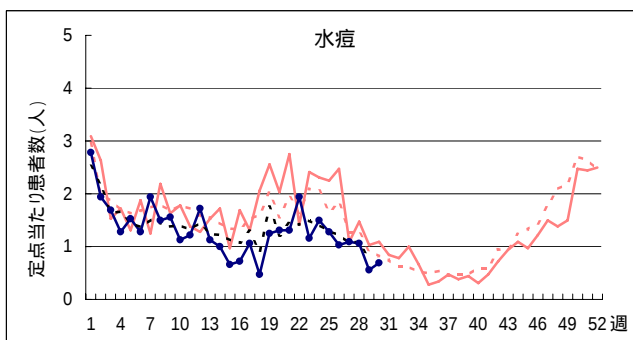
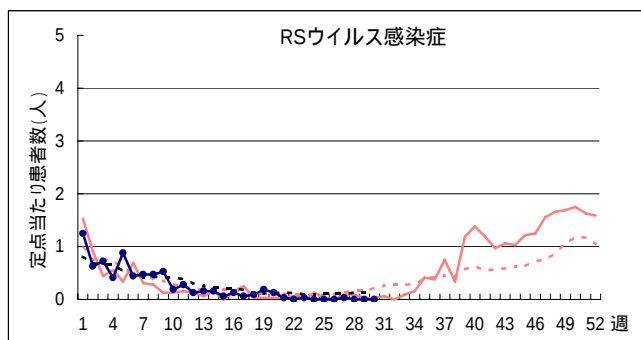
届出保健所管内別は

大津市 5名、草津 10名、東近江 8名、彦根 2名です。

疾病別定点当たり患者数(平成24年第30週、H24.1.2～H24.7.29)



H23 { 滋賀 (solid red line)
全国 (dotted red line)
H24 { 滋賀 (solid blue line with dots)
全国 (dotted blue line with dots)



疾病別定点当たり患者数 (平成24年第30週、H24.1.2～H24.7.29)

H23 〔 滋賀 ———— 全国 〕
H24 〔 滋賀 ●●●● 全国 〕

